

ケ ア サ ー ビ ス 便 り

2013.4.1~2014.3.31

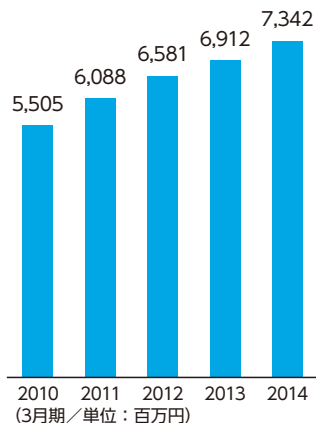
Letters from Care Service Co.,Ltd.



業績ハイライト

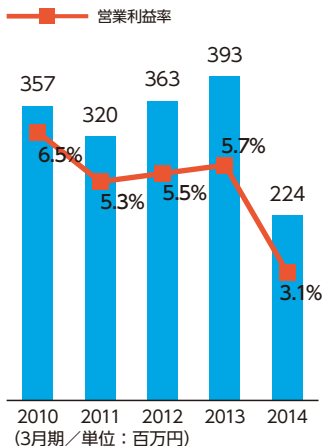
●売上高

73億42百万円
前期比 6.2%増



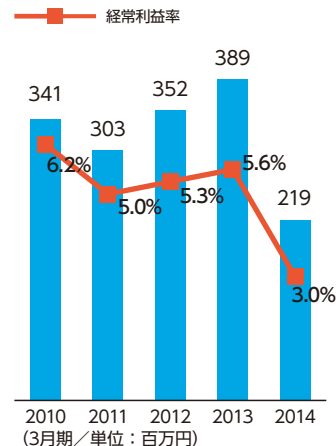
●営業利益

2億24百万円
前期比 43.1%減



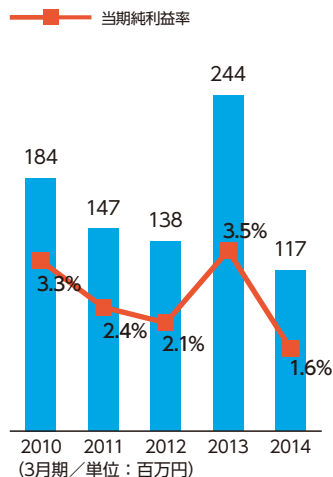
●経常利益

2億19百万円
前期比 43.7%減

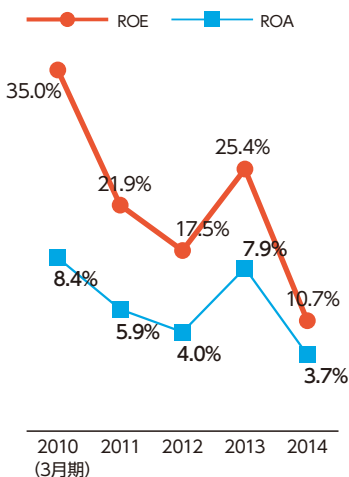


●当期純利益

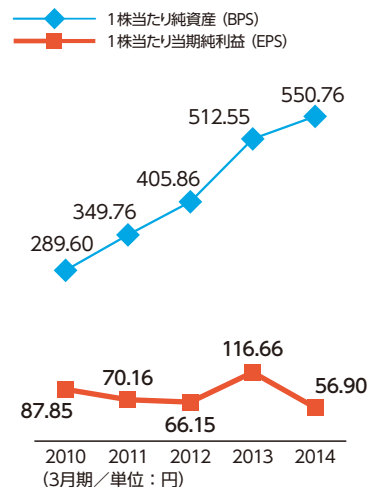
1億17百万円
前期比 52.2%減



●自己資本利益率 (ROE) 総資本利益率 (ROA)



●1株当たり当期純利益 (EPS) 1株当たり純資産 (BPS)



※2013年7月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っており、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行っております。



事業内容と業績概要

●介護事業

デイサービス、訪問入浴、訪問介護、居宅介護支援、福祉用具貸与等のサービスを提供する介護事業では、主力のデイサービスにおいて、2013年10月東京都大田区に「デイサービスセンター仲池上」を開設いたしました。訪問入浴では、2013年5月東京都杉並区に「訪問入浴下井草」を開設いたしました。この結果、同事業の売上高は前期比5.8%増の53億56百万円、セグメント利益は同24.6%減の4億円となりました。

●エンゼルケア事業

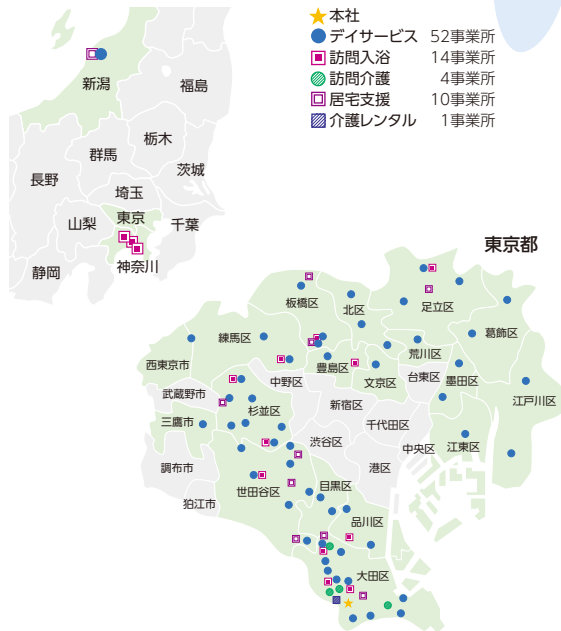
冠婚葬祭の互助会及び葬儀社と契約を結び、湯灌サービス等を行うエンゼルケア事業では、2013年9月東京都八王子市に「エンゼルケア八王子事業所」、千葉県柏市に「エンゼルケア柏事業所」を開設しました。エンゼルケア事業では、2事業所の新設により、20事業所となりました。この結果、同事業の売上高は前期比8.1%増の16億2百万円、セグメント利益は4.1%増の4億26百万円となりました。

●サービス付き高齢者向け住宅事業

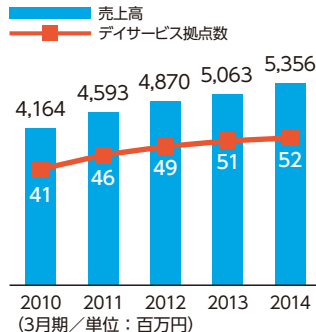
埼玉県で3事業所を展開するサービス付き高齢者向け住宅事業では、終の棲家としてご利用いただけるようサービスの充実及び質の向上に取り組みました。この結果、同事業の売上高は前期比4.6%増の3億83百万円、セグメント利益は35.0%減の31百万円となりました。

※各セグメント利益は、全社費用配賦前の営業利益でございます。

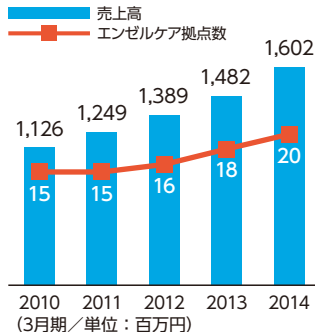
介護事業拠点マップ (2014年3月31日現在)



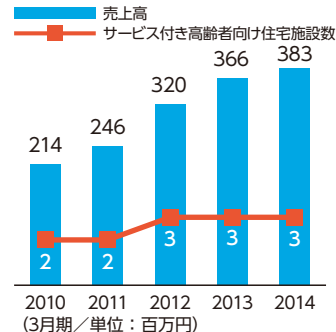
介護事業



エンゼルケア事業



サービス付き高齢者向け住宅事業





代表取締役社長 福原敏雄

2015年4月の介護保険法改正に先駆け、「地域包括ケアシステム」に向けた動きが顕在化し、介護事業を取り巻く市場環境は、これまでに大きく変化しつつあります。

これらの変化に対する新たなチャレンジの中で、事業現場で生じる多くの気づきをサービス改善につなげ、次期成長に向けて事業基盤の構築を進めるケアサービスの現状について、代表取締役社長の福原敏雄に聞きました。

企業理念

- 私たちは、お客様一人ひとりの尊厳に共感したサービスを提供します
- 私たちは、全従業員とその家族の幸せを追求します

Question1

市場環境の中長期的な方向性について、考え方を教えてください。

高齢者サービス市場においては中長期的な伸びが期待できる一方、従来の延長線上にはない、大きな変化が起こりつつあります。介護保険に関しては、介護保険財政の逼迫により、受給者負担割合が増えていくことが予測されます。例えば、次の介護保険法改正では、要支援1、2がこれまでの介護保険の枠組みから外れる見込みです。加えて、介護報酬単価のさらなる引下げも予想されます。

さらに、当社が戦略的にドミナント化を進める東京23区においては、お客様のニーズは高いものの、広い土地を必要とする居住型施設の開設が難しい状況が続いています。このため、自宅での在宅介護ニーズが今後さらに高まってくると考えられます。

このような流れの中、厚生労働省が主導する、「地域包括ケアシステム※」の構築が進められています。このシステムのもと、当社をはじめとする民間企業は、地域における重要な役割を積極的に担うこととなります。当社では、経営力を磨き、市場から求められるサービス品質の維持向上を図りつつ、介護事業の一層のドミナント化を推進し、地域とお客様との密接な関係を築き上げることで、今後の成長に向けた強い事業基盤の構築を進めていきたいと考えています。

※2025年を目途にその構築が推進されている、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような地域の包括的な支援・サービス提供体制

Question2

ケアサービスの新たな取り組みについて教えてください。

当社が東京23区を中心に推進する介護事業のドミナント化により、地域高齢者の皆様のニーズを的確にとらえることができ、それを反映させた新たな事業展開が可能となりました。

その試みの一つとして、2013年9月、デイサービスセンター東矢口において、周辺にお住いの元気な高齢者の皆様の「健康づくり」と「交流」を目的とした『コミュニティセンター東矢口』を開設いたしました。さらに2014年6月には大田区内にセントラルキッチンを開設します。この施設では、当社が運営しているデイサービスセンターのお客様からいただいた貴重なご意見を参考に『地域高齢者の皆様の健康・栄養に配慮したおいしい食事をご提供させていただき、食の楽しみを感じていただき、健康な身体作り』のお手伝いをさせていただきたいと思っております。地域高齢者の皆様にご満足いただける配食サービスへの参入に向けて、まずは既存デイサービスセンター12拠点への昼食提供を開始します。食事につきましては、自社専属の管理栄養士が複数名体制でメニューを考案します。さらに、安全性の問

題が指摘される「きざみ食」や見た目が良くない「ミキサー食」に代わる、見た目・おいしさともに魅力がある安全なソフト食のご提供をしております。

当社ドミナント地域における在宅介護ニーズの拡大および多様化の可能性を見据え、訪問入浴サービスのさらなる効率化図り、また、認知症対応、栄養改善、口腔機能向上、機能訓練など専門性が高い介護領域への対応を強化しております。

従来と異なる手法による拠点展開も強化しています。一例となりますが、デイサービスセンター東葛西と吉祥寺は、コンビニエンスストアとの共同出店で開設しました。このように今後もさまざまな形態による出店を検討しております。

■コンビニエンスストアとの共同出店



デイサービスセンター吉祥寺

■配食サービス(ソフト食の例)



見た目・おいしさともに魅力があり、安全なソフト食を提供しております。



デイサービスセンター東葛西

Question3

株主・投資家の皆様にメッセージをお願いします。

当社ビジネスモデルの最大の特徴は、「介護からエンゼルケア」までの、一貫した独自の事業基盤を持っていることです。「地域包括ケアシステム」が目指す、「可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる」ための支援やサービスの提供という意味で、この事業基盤は当社の大きな優位性につながると考えています。

ただし、この優位性を活かすためにはお客様に信頼していただけるよう、また、お客様に感動していただけるよう、サービス品質を継続的に向上させていかなければなりません。

その実現に向け、当社のあるべき姿を伝える「ケアサービスフィロソフィ」の浸透はもちろん、従業員の生活力向上、教育研修担当などの専門家の招聘、高校生・専門学校生を含めた新卒採用の強化、経営基盤の強化と業務の効率化を図る基幹システムの入れ替えなど、多岐にわたる領域で投資を加速しております。2014年6月からは、経営上の意思決定の迅速化、経営の効率化を目的に、執行役員制度を導入いたしました。

ケアサービスのあるべき姿を支える
「ケアサービスフィロソフィ」



当期は、期中にシステムや人的な投資を追加決定したことなどにより、業績予想の下方修正を行うなど、株主・投資家の皆様にご迷惑をおかけいたしましたが、いずれも、将来を見据えた積極的な先行投資となります。

こういった社内での取り組みや価値観を同じくする外部パートナーとの協業の強化を通じ、事業現場での新たな気づきが増えてきました。重要な気づきの数々を積極的にサービス改善につなげ、収益性を向上させていきたいと考えております。

投資家・株主の皆様におかれましては、これからの当社の発展にご期待いただき、変わらずご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

次期業績予想のポイント

前期から当期にかけてのデイサービスセンター出店7カ所の投資効果により、主力事業のデイサービス及び訪問入浴の平均稼働率が向上し、エンゼルケア事業も堅調に推移するものと予想しております。予定されている介護保険法の改正に向けた対応を引き続き強化して行くとともに、当期実施の基幹システムの更新と新管理会計システムの導入により、さらなる業務効率の向上に努めてまいります。

以上の結果、次期売上高は7,724百万円、営業利益277百万円、経常利益266百万円、当期純利益150百万円を見込んでおります。

● 2015年3月期 業績予想概要

(単位：百万円)	14/3月期		15/3月期		前期比
	実績	構成比	予想	構成比	
売上高	7,342	100.0%	7,724	100.0%	5.2%
営業利益	224	3.1%	277	3.6%	24.0%
経常利益	219	3.0%	266	3.4%	21.5%
当期純利益	117	1.6%	150	1.9%	28.4%
1株当たり情報 (単位：円)					
当期純利益 (EPS)			56.90		74.14
年間配当金 (DPS)			10.50		11.50

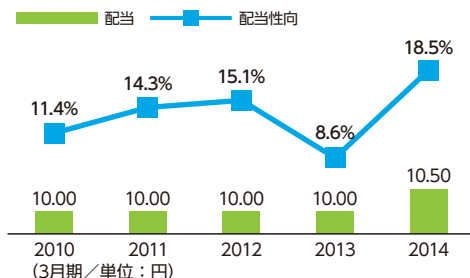
※業績予想につきましては、当社が現時点において合理的と判断するデータに基づいて作成しており、そのため不確定要因や今後の事業展開における状況変化等により、実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。

貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

	当 期 (2014年3月31日現在)	前 期 (2013年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	2,319,356	2,376,584
固定資産	874,309	742,137
有形固定資産	338,150	357,080
無形固定資産	181,842	52,741
投資その他の資産	354,316	332,314
資産合計	3,193,665	3,118,721
負債の部		
流動負債	1,314,828	1,554,916
固定負債	761,886	487,456
負債合計	2,076,715	2,042,373
株主資本	1,116,911	1,076,400
評価・換算差額等	38	△52
純資産合計	1,116,950	1,076,348
負債純資産合計	3,193,665	3,118,721

● 配当金と配当性向の推移



※2013年7月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っており、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行っております。

損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

	当 期 (2013年4月1日～ 2014年3月31日)	前 期 (2012年4月1日～ 2013年3月31日)
売上高	7,342,071	6,912,441
売上原価	6,284,082	5,777,324
売上総利益	1,057,989	1,135,117
販売費及び一般管理費	833,977	741,573
営業利益	224,011	393,543
営業外収益	6,466	17,047
営業外費用	11,368	21,181
経常利益	219,110	389,409
特別利益	—	59,950
特別損失	—	17,626
税引前当期純利益	219,110	431,733
法人税、住民税及び事業税	85,397	213,092
法人税等調整額	16,618	△26,346
法人税等合計	102,015	186,745
当期純利益	117,095	244,987

キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)

	当 期 (2013年4月1日～ 2014年3月31日)	前 期 (2012年4月1日～ 2013年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,839	446,473
投資活動によるキャッシュ・フロー	△87,483	△45,242
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7	△235,905
現金及び現金同等物の増減額	△72,651	165,325
現金及び現金同等物の期首残高	1,165,371	1,000,045
現金及び現金同等物の期末残高	1,092,719	1,165,371



エンゼルケア千葉
嶋野友紀
(新卒入社6年目)

エンゼルケア東京
杉山翔平
(新卒入社3年目)

代表取締役社長
福原敏雄

ケアサービスに入社した理由

嶋野：高校生の時、祖母の湯灌を見て興味を持ち、大学で福祉と福祉心理学を専攻して、福祉の対象が「ゆりかごから墓場まで」であるとの概念を学びました。「介護からエンゼルケアまで」の事業にずっと携わってこられた福原社長の想いにとても共感し、また、学んだことを実践できる会社として、ケアサービスに入社しました。

杉山：私は4人兄弟の一番下で、家族によく面倒を見てもらいました。大学卒業を控え、社会における家族の在り方を考えるようになっていた折、就職活動で、ケアサービスのエンゼルケア事業を知りました。ご葬儀という慌ただしい時間の中でも、湯灌が故人様とご家族様の最期の絆を深められることに感動し、この仕事なら、社会人として、自分が両親に良くしてもらったことへの恩返しができるのではないかと思います、入社を決めました。



お客様の尊厳に共感したサービスを追求してまいります。

高齢化社会において、ますます重要な役割を担うことが期待されるエンゼルケア事業。「介護の到達点」ともいえる事業の現場について、スタッフの嶋野友紀さん、杉山翔平さん、福原社長が語ります。

エンゼルケアの現場で特に気を付けている点

嶋野：エンゼルケアの現場では、悲しみが一番深いときにお客様と接します。日常にはない状況ですので、その接し方に常に葛藤があります。悲しいときに笑顔で接することはできませんが、礼儀正しく、少し微笑みながら、お客様が不快に感じられない接し方を心がけています。



故人様のお手当てをさせていただき、湯灌やご納棺の説明などをしながら、ご家族様とご納棺を行うわけですが、その流れの中でお聞きするご家族様の一言一言に、故人様の日常が見えてきます。そのようなささやきを敏感に感じ取り、湯灌・ご納棺の進め方をご提案できるように心がけています。

杉山：エンゼルケアは、自分の価値観で動いてはいけない仕事です。以前、目立つ傷のある故人様がいらっしゃいました。お化粧で隠させていただこうとすると、ご家族様はその傷ではなくて、「ずっと呼吸器をつけていてできた傷がかわいそうなので、それを消してほしい」とおっしゃるのです。

当社のサービス使命 『心豊かな人生を、そして感動の旅立ち』

「死を見つめ、人とのつながりを感じながら生きていくこと」

を理解し、心から考えることで、介護サービスの選択、生前準備から天国への旅立ちに至る、全体的な介護サービスの実現を目指します。

ケアサービスのエンゼルケア事業は、主に湯灌サービス、CDC※サービスを冠婚葬祭業の互助会や葬儀社と契約を結んで提供しています。私たちはエンゼルケア事業を「介護の到達点」と位置付けています。

※スタッフが、ご自宅や葬儀場にお伺いし、お化粧・納棺等を行うサービスです。

ご家族様が欲していらっしゃることを少しでも多く感じ取れるように、自分の価値観を良い意味で捨て、日々の業務で刷り込まれてしまう部分を毎日白紙に戻し、真っ新たな気持ちで業務を行う努力を続けています。

エンゼルケア事業に込める想い

福原：当社がエンゼルケア事業を始めて24年が経ちます。その過程で、非常に多くのご利用者様から、感謝のお言葉を頂戴しました。これは、私たちが追求している、お客様一人ひとりの尊厳に共感したサービスに対するお客様満足の表れであると感じています。

エンゼルケアのスタッフは、普通なら一生に数回しか体験できない最期のお別れの場面に日々ご一緒させていただき、多くの気づきを積み重ねています。究極の介護の姿とも言えるエンゼルケア業務を実践しているスタッフには、到来する高齢化社会において、ますます必要とされる事業の推進役としての誇りを持って、この事業を社会に広めていただきたいと思います。そのためにも、スタッフとともにケアサービスフィロソフィを日々実践し、自らの人間性を高め、サービスの品質向上に努めていきたいですね。



杉山：私は、この仕事を通じ、素直に人の話を聞くことができるようになりました。そのことで、皆さんにご協力いただける範囲も広がりました。この仕事が私の人間性を高めてくれているのだと思います。

人材が宝の仕事ですから、「お客様の尊厳に共感する」という根幹の部分を日々感じながら、かつ、周りの方々に感謝し、謙虚さを忘れない姿勢を積み上げながら、いずれは、その一番大事な部分を新卒者の皆さんに伝えられる存在になりたいと考えています。

嶋野：最期のお手伝いをさせていただくと、故人様とその方を取り巻く方々の関係性がすごくわかるんです。こんなに多くの方々に愛されていらっしゃる故人様は皆様に本当に良くされてきたのだろうと。

そのような最期にご一緒させていただき、私たちスタッフは、お客様とこの仕事に対する感謝の意識がとても強いと思います。その想いをさらに共有するため、私は、事業所内のコミュニケーション強化に注力し、この仕事に従事できて本当に良かったと感じられる事業所の環境づくりに貢献していきたいと考えています。



1 地域コミュニティの活性化を 応援しています。

2013年9月より、デイサービスセンター東矢口を日曜日にコミュニティセンターとして開放し、地域の皆様にご利用いただいております。開催されるイベント・講座は、「数独、手芸、詩吟、吹き矢、膝痛・腰痛予防運動」など多岐にわたり、多くの方々にご参加いただいております。また、近隣の方にもご自身の趣味や特技を生かして、地域講師としてご活躍いただいております。今後も「みんなで作る地域のたまり場！」を目指し、地域コミュニティの活性化を応援してまいります。



2 訪問入浴車全43台にAED (自動体外除細動器)を設置しました。

当社では、地域の皆様に万一の事態が発生した際に速やかに対処できるよう、今までAED（自動体外除細動器）をデイサービスセンターに設置しておりましたが、2014年2月10日には、当社訪問入浴サービスの訪問入浴車全43台にもAEDを設置いたしました。訪問入浴車には、必ず看護師が同乗しておりますが、不測の事態に一刻も早く対応できるよう、看護師以外に、各車に上級救命講習を修了したスタッフが同乗し、AEDの適切な使用はもちろんのこと、応急手当に対しても対応が可能となりました。今後も地域の皆様の安全・安心に貢献できるように、地域に根ざしたサービスの提供を目指してまいります。





会社概要

会社概要

(2014年3月31日現在)

名称	株式会社ケアサービス
代表者	福原敏雄
本社	〒144-0054 東京都大田区新蒲田三丁目15番7号 TEL：03-5713-1611 FAX：03-5713-1650
創業	1970年10月5日
資本金	205,125,000円

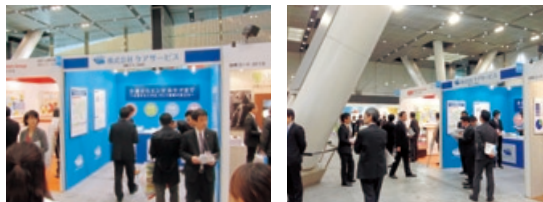
取締役及び監査役の状況

(2014年6月23日現在)

代表取締役社長	福原敏雄
常務取締役	富澤政信
取締役	小林航太郎
取締役	石崎利生
取締役	福原俊晴
監査役	太田健太郎
監査役	藤好優臣
監査役	吉田由美子

当社のIR活動

東証IRフェスタ2014に出展しました。



2014年2月21日（金）、22日（土）に東京国際フォーラムにて開催された「東証IRフェスタ2014」（主催：東京証券取引所）に出展いたしました。個人投資家の皆様にケアサービスへのご理解を深めていただくことを目的に会社説明会や企業ブースでの事業説明を実施いたしました。会社説明会では「ケアサービスが目指す『介護の到達点』とは」というタイトルで、会場に立ち見が出るほど大勢の方にご参加いただきました。今後もより多くの投資家の皆様と直接お話しできる、このような機会を増やし、IR活動のさらなる充実に取り組んでまいります。

IRカレンダー

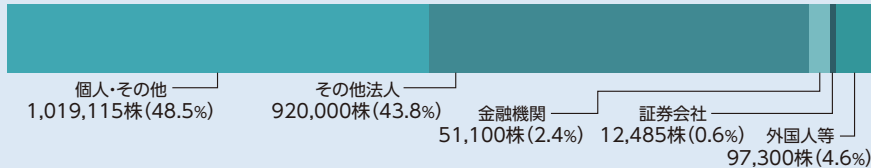
年月	内容
2014.8	第1四半期決算発表
2014.11	第2四半期決算発表
2014.12	アナリスト向け説明会
2015.2	第3四半期決算発表
2015.5	決算発表



株式の状況 (2014年3月31日現在)

発行可能株式総数	5,760,000株
発行済株式の総数	2,100,000株 (自己株式72,000株を含む)
株主数	750名

所有者別株式分布



株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日 そのほかに臨時に必要な場合は、 あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 電話照会先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 (〒137-8081) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.care.co.jp/